

## 第1回 Clinical AI 外部評価委員会 講評

令和3年6月2日(水)に Clinical AI 外部評価委員会を開催し、令和2年11月の事業開始から令和3年5月末までの Clinical AI の取組状況についてレビューを行った。

なお、委員会メンバーは別紙のとおりである。

この高度人材育成プロジェクトは医療系大学院博士課程に設置され、正規課程学生とインテンシブコース生を対象としたものであり、これら学生がこのプロジェクトでの就学後に医療×AI を医療現場等で高いレベルで実践できるようになることを大きな目的としている。そのため、プロジェクトの真の成果を判断するためには、令和3年4月1日付で大学院に入学した者がどのように医療現場でAIを活用し活躍しているかをレビューすることが必要であるが、それに至るプロセス等を評価することも、同じく重要と考えられる。

従って、今回の外部評価委員会においては、各大学における就学環境の整備状況、学生の入学状況等についてレビューを実施した。

以下、各委員からの意見である。

### ○育成すべき医療 AI 人材に関して：

当プロジェクトは、解析する人と課題抽出してくる人で教育を組み立てているように見えるが、現在、AI 研究で求められているのは、データベース基盤を作ることと、およびデータベースとAI解析の間を繋ぐ人材が不足していること。

今後の医療 AI 人材育成拠点として、医療データベース構築人材育成やデータベース活用人材の育成を期待したい。

### ○教育対象に関して：

内閣府の AI ホスピタル構想もあり、働き方改革と共に医療 AI 分野は一気に進むものと期待されるが、このプログラムには医師だけではなく、AI ベンチャーの方々や社会人の方々も多く参加してくれるとっと発展すると考えられる。

デザイン思考に加え分野横断的に生命倫理、経営学、医療経済学も入れると医療ベンチャーの育成に繋がると考えられ、各大学の取り組みに期待する。

### ○医療現場とのつながりに関して：

このプロジェクトの進展により、今後 AI 知識を持った医療人材が現場に出てきて病院側からのニーズを拾っていただけるようになるのではないかと期待している。技術的なものは教育されていくと思うが、医療の現場や病院で起こっている問題をどのように教育の現場に理解していただき、それらを検討、解決していただけるのか、その問題解決に至るプロセスに関するシステムを作っていたらと有難い。

○医療データ活用環境に関して：

1つの例として、診療画像を多数用いた臨床研究が推進されるシステムを今作っているということだが、電子カルテから膨大なデータを引き出して診療を支援したり、臨床研究を支援したりできる人材を育成していただきたい。

○学生への配慮に関して：

コロナ禍ということもあり対面で会うことが難しいので、学生のメンタリングにも配慮していただきたい。

以上を踏まえ、総評としては次のとおり評価する。

- ・非常にチャレンジングなプロジェクトで、大きな目標に向かって着実な取り組みがなされている。
- ・プロジェクト申請時に設定した KPI（履修開始学生数、シンポジウム等での聴講者数）も十分に上回っている。
- ・今後の一層の発展を大いに期待し、これまでの取組については高く評価する。

令和3年6月2日

Clinical AI 外部評価委員会

委員長 荒井 陽一

## Clinical AI 外部評価委員会委員名簿

(令和3年6月2日現在)

氏名	所属・職
荒井 陽一	地方独立行政法人 宮城県立病院機構 理事長
陣崎 雅弘	慶應義塾大学医学部放射線科学教室（診断）教授
園田 崇史	株式会社ウフル・代表取締役 CEO
高平 真	市立釧路総合病院病院長
土井 英之	岡山旭東病院副院長